

# 寺庭婦人会だより

## ◆ 第二回理事会報告

八月二十九日  
グランシップ九〇七会議室  
出席者 十八名

第二回理事会では①春季研修会並びに総会反省②秋季研修会③第三回理事会④その他について話し合いました。

### ①反省

もう少しゆつたりできなかったか？休憩がなかった。  
スムーズに運んだ。  
などの意見が出ました。その他に

### ● 集合写真は必要か

いららないという人もあり、また経費的にも十万円ほどかかる、撮影に時間がかかるなどから、以前より度々問題になっていたそうです。結局良い案がなく、撮影は一年おきという状態で続いています。



「記録として残す」必要性もあります。実際に役員になって総会を実施する場合、過去の写真を参考にしましたから。

経費節減の方法として、自分たちで撮影して焼き増しすれば安くできますが、並ぶ台を用意すること・全員を素早く整列させることは難しいなどから結局よい方法は見つからず結論は持ち越しました。

### ● お弁当

主催者側として当日判断に迷うこともあるので、次のようにさせていただきます。ご了承下さい。

◇参加申し込み変更可能期日以後のキャンセルは「会費は徴収・弁当無し」

◇事前申し込みが早退の場合「会費は徴収・弁当無し」  
◇当日急ぎよ早退の場合は「弁当が届いていれば持ち帰り、間に合わなければ各部の配分の中から返却して貰い、事務局で処理」と致します。  
昼食に用いることを前提として作られた弁当なので、近くの方に預けて届けるという事は致しません(食品衛生上不安です)。ご了承下さい。なお秋季研修会については、遠出をするなどいろいろなやり方があるので、この限りではありません。

### ● 仏教講座

数年前から本山の寺庭婦人研修会のシステムが変わり、研修生は教区寺庭婦人会での講義も受講することが必須となりました。これに伴って、春季研修会では本山から講師が派遣されることになりました。講座の内容がどのように展開していくのかわからなかったのですが、今年度の稲葉先生のレジュメの中の「はじめに」の部分に次のように書いてありました。



#### 仏教概論

禅宗の成立と宗祖臨濟禪師  
平成二十五・二十六年  
平成二十七年  
平成二十八年  
平成二十九年

日本の臨濟宗  
私たちの本山  
平成三十・三十一年度の予定

#### 宗旨編

静岡東教区の場合、先人の努力により研修会も四十一年となり非常に充実した内容で実施されています。全国的にみると教区寺庭婦人会という組織が立ち上がって間もない所もあるそうです。私たちのように研修会をずっと続けてきた教区では、本山の寺庭婦人研修会受講者対象の講義を全体で聴いても、経験を重ねた寺庭にとっては「また同じことを・・・」とお感じになるかも知れませんし、講師の先生も幅広い層の参加者対象でやりにくいことと思います。今回の理事会でも「仏教概論だけでなく現代の諸問題など深く掘り下げた内容をプラスしていただきたい」という意見も出ました。



写真撮影の時に、手は絡子の下に入れ、見えないうようにしましょう。

## ② 秋季研修会については別刷りの案内を「ご覧下さい」。

案内に書いてありますが、静岡駅南口に送迎バスを用意致します。申し込みの時に、利用料として千五百円を会費と一緒に各部会長様へお納め下さい。全員が利用するわけではないので助成は致しませんが、この金額のご負担をお願いします。

午前中は緑泉寺ご住職青江覚峰師に二つのテーマについてお話ししていただきます。ちなみに師をモデルとしたコミック「サチのお寺ごはん」が秋田書店から四巻出ています。またテレビ放送も始まりました。谷村美月主演で、BSトウエルビ 七月二十二日放映開始、土曜日の二十一時三十分からです。

「臼井幸」(薄い幸)という名の通り、なにかとツイている毎日コンビニ食ばかりのイベント会社OLが出会ったのは、料理で仏の道を伝える三人組。お寺で精進料理をいただきながら、ご飯をきちんと食べる大切さを教わり、生きにくい毎日がだんだん楽しくなっていく。そんなサチが毎回、仕事、人間関係、恋愛でつまづきながら少しずつ成長していく、お寺を舞台にした、グルメ・ラブストーリーです。講師の青江師が監修しています。



「サチのお寺ごはん」公式サイト  
のトップページです。  
<http://sachinooteragohan.com/index.html>

午後は「僧堂用語を覚えよう」と題し、僧堂用語をピックアップして臨濟寺雲水さんに説明していただきます。教区役員となり春季研修会を実施する際には、老師様や雲水さんと打ち合わせをすることになります。やはりある程度の僧堂用語を知っていないと、何を話しているのかわからない場合があります。用語の説明を受ける中



## 雲水日記

佐藤義英 画文

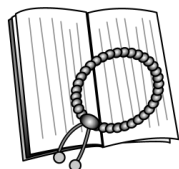
絵で見る禪の修行生活

「はくえ」は「はくえい」として違うの？という疑問から生まれた企画です。

## ③ 第三回理事会

例年二月に開催していますが、この時期は話し合う内容もそれほど無いので、今年度は研修会を兼ねたものにしようと考えています。一案として「観音霊場巡拝一日コース」が事務局内で提案されました。静岡県には駿河一國二十三観音、遠江三十三観音、伊豆横道三十三観音があります。事務局地元の駿河・・・と思いましたが、平日実施する予定なので「伊豆」はどうでしょうか？沼津か三島駅に集合してバスで周ります。ただしちよつと調べてみると小さなお寺で無住寺院も多く、駐車スペースも無いところがあるようです。住職のいらつしやる札所、バスで入れるところを選んでみましょうか？

実施する場合は、理事だけでなく会員全部にご案内を差し上げます。観音霊場巡拝はどんな風にするのか？体験したい方は是非ご参加下さい。ただ伊豆横道は周りに経験者が居ないので、無難な駿河になるかも知れません。思いついただけで、全く下調べをしていないので具体的な案は現時点でなにも申し上げられません。興味のある方がいらしたら、御一緒に計画してみましよう。



で僧堂生活が垣間見えるかも知れません。これから修行をなさる息子さんをお持ちの寺庭には参考になるかと思えます。

来年の秋季研修会では僧堂用語の次の段階として「仏教用語の読み方」をテーマにする予定です。「教会では『れいはい』寺では『らい



## ◆自坊の紹介

皆様に提出していただいた「自坊の紹介」をまとめました。役員が手分けして入力しましたが、僧名には難しい字も多く、「手書き文字入力」でやっと探した文字も多かったです。ふりがなも含めて、こちらで勝手に直すことはせず、書かれたままと記載することになりましたが、間違いなどありましたら、正誤表を作りますので、ご連絡下さい。

御詠歌をやっておりますと、「二世微妙大師」「授翁宗弼」「日峰禅師」などのお名前が頻りに耳にします。また「行基」や「蘭溪道隆」は教科書にも載っています。このように有名な和尚様が開山様であると思うと、自坊でなくても同じ宗派として誇らしく思います。



行基菩薩

今回のこの企画で改めて自分のお寺はどんな歴史があるのか？を知り、誇りを持った方もいらつしやると思っています。また廃寺になったり合併吸収された寺院のことも記載されています。これを機会に過去を振り返るだけでなく「寺院のこれから」を考えていきたいと思えます。

「医王山」「医王寺」というように、「医王」の名がついた寺が何軒がありました。したがってご本尊は「薬師如来」ですね。なるほど・・・入力作業は面倒ですが、このような楽しみもあります。「仏満禅師」はどんな方だったのでしょうか？「雪斎長老」とともに、開いたお寺の多い和尚様ですね。



Buddhirs (c) RayLand

郷土史家、黒澤脩先生に、「自坊の紹介」をお送りし、感想を聞いてみました。全体を通してなにかこう・・・パツと感ずること、気がついたことはありませんか？と伺いましたが、「書いてある内容が質・量ともにばらつきが多いですね」とのことでした。ただ、自坊を知ることには大切なことであり、檀家さんや地域の人、訪れた人などに、「自分の寺はこんな歴史を持ち、地域と関わり合ってきた、宗旨は、ご本尊は・・・」など平日頃きちんと説明することはとても大切なこととおっしゃいました。

秋季研修会では「自坊の紹介」の続きを致します。記載

されている内容に間違いがあった方、春季研修会でしゃべり足りなかつた方、まとめをみての感想など聞かせて下さい。資料を提出していただいた方のみに配布しましたが、お持ちでない方には差し上げますので、「自坊の紹介記入用紙」に記入の上、会長へFAXでご送信下さい。当日お渡し致します。

来年度も「自坊の紹介」は続けますが、今回は自坊の歴史で過去のことだったので、次回は自坊の「現在・未来」についてを話題にしようと考えています。

## ◆災害見舞いについて

寺庭婦人会本会計の他に「災害特別行事費」という会計があります。熊本地震の時にはこちらの会計から十万円を義援金として支出しています。今年も七月に九州北部豪雨があり、見舞金を検討しましたが、今回は見合わせました。どの程度の災害に見舞金を出すのか？災害が多発している近年、悩むところです。

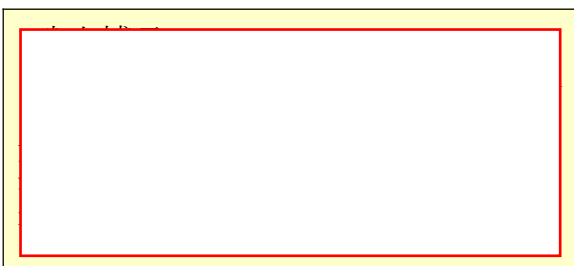
## ◆名簿

平成二十九年度版の静岡東教区寺庭婦人会名簿ができました。間違いがありましたら事務局までご連絡下さい。作成終了後配布までの間に一部の二名の寺庭様のご逝去なさいました。各自訂正をお願い致します。

台番 二七五五六 長楽寺 景川良子様  
二七五五八 普門寺 大野たま子様  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## ◆事務局連絡先

皆様のご意見をお聞かせ下さい。連絡は下記の役員へどうぞ。電話でもショートメールでもかまいません。



FAX 054-294-0709

(秘在寺)

締めきり 9月末日

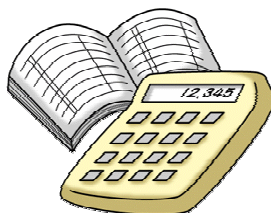
## ◆ 仕事部屋のささやき



事務局会を重ねていると、何を決めるにもその度にいろいろな意見が出て楽しい。役を受ける前はただ言われたことだけをこなしていればいいのだからうくらいに思っていた。大概のことは会長、副会長が決めてくれるものと思っていた。しかし、いざ事務局が動き出すと、いろいろな意見を求められる。最初は、私が発言してもいいの？という気持ちがあったが、事務局のみなさまの寛容さに甘えながら、今は好きなことを言わせてもらっている。有難いことだ。同じ寺庭とはいえ、私とは経験値がまるで違う。それなのに私の意見を「そうだね、いいね」と聞いて下さる事務局のみなさまの、寺庭として、人間としての大きさを感ぜると、自然に仕事をさせてもらっているという感覚になる。時には本題からずれてのおしゃべりとなることもあるが、その中で学ぶことが多いのも嬉しい。役は、何をやるかより、誰とやるかだなと心から思う。

事務局として、会計としてわかったことがある。年度予算は事務局が動き出す前にたてたものだから、実際にこうして活動してみると、あれもやりたい、これもやりたいと思えば思うほど、予算とは離れてしまうという。過去の予算案・決算などを参考に、事務局で考えた予算案なのだが、なかなか難しいものだ。会員の皆様からお預かりした会費、教区からの助成金、意味のあるものとして使わなくてはいけないという気持ち等をさらに深めている。

(渡邊尚子)

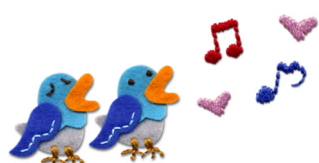


自坊の紹介入力作業で私は、一部を担当。会長がひな型をつくってくれたので見ていると、ふと不安が横切る。一枚に四力寺入力。じゃあ、一枚目はどこに入力するのかな？途中で終わる時の、保存の仕方は？

そう、送信する時は、一枚ずつ、送るのかな？？？初心者マークの私の頭の中は、不安だらけ。会議中だったので、話が途切れた時に、すみませんと、聞いてみる。

下の方にあるシートをクリックすればいいらしい。教えてもらい、わかったような、わからないような？でも、何とかなることだけはわかった。

よし、毎日一枚、入力しよう。(私は皆さんより時間がかかるので)



うに打ち込み、何回も見直す。誤字を直すときに、余分なところまで消してしまったり、枠の中に入り切れない時は、フォントを小さくする話を思い出したものの、どうしたらいいのかわからない。難しい漢字も沢山あった。

常に、全部消したらどうしようという思いから、指先にとでも力が入るので肩はバリバリ。印刷したら、字が消えている。なんで？？落ち込む私に、フォントを小さくしたらいいよと、和尚さんの声がある。

今回の入力で、一段レベルアップできた。自坊の紹介のおかげです。それぞれの寺に受け継がれてきた長い長い歴史があり、未来に受け継いでいく役目を背負っていることも感じる事ができた。何より、協力して下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

(清陀啓子)

※陰の声 入力終了トップは清陀さんでした。

ずっと前に読んだ野口悠紀夫氏の超勉強法にこんなことが書いてありました。記憶は曖昧ですが、学習方法には「富士山方式」と「パラスノート方式」の二つがある。数学などは基礎からしっかり学んでいかなければいけないから「富士山方式」、対してパソコンの場合は「富士山方式」でやると裾野が広すぎていつまでも頂上に到達できないから、興味のあるところから学び始めれば良い、こんなことだったと思います。今回一緒に仕事をしてくれている仲間の中に、パソコンに不慣れな人もいましたが、期せずしてパラスノート方式で学んでいることになりました。メールをやりとりすることでタイピングに慣れ、メールにファイルを添付することでハードディスクの構造がわかり、次はエクセルに挑戦。またラベルなどを作ることも必要に迫られてマスター・・・と、どんどんできることが広がっていきます。

ちなみに私は御詠歌を教える時も「パラスノート方式」です。基本は大事でおろそかにするつもりはありませんが、まずは年間行事で使える曲をマスター、本番を重ねることで練習にも身が入ります。それらをなんとかお唱えできるようになったら、他の曲も少しずつ練習、そうすると一旦習った曲もさらに上達するように感じます。

(武山博子)

景川さんは七月にお義母様が逝去され、お盆、四十九日忌と続いたので、寺庭婦人会仕事部屋でささやく時間が取れませんでした。



# 建徳寺の地蔵菩薩修復作業支援から思うこと

秘在寺 武山博子

静岡市に今は廃寺となった建徳寺(たきようじ)がありました。フェイスブックでクラウドファンディングによる「建徳寺地蔵菩薩修復プロジェクト」を知り、私もほんの少し協力しました。私も詳しくは知りませんが、目標金額に達したら実施とのこと、集まらなかつたらどうなるかは知りませんが、寄付した以上、まずは実施できるかハラハラしながら経過を見ていました。平成二十八年七月に募集を開始、目標金額は一〇三万、そして一ヶ月後の八月には九十一人の支援により、目標金額を上回る百二十二万八千円が集まり、このプロジェクトは実施の運びとなりました。



建徳寺 (瑞祥山建徳寺)

建徳寺は、白鳳年間(八五四〜八六九)に道昭法師によって開基された真言宗の古寺である。奈良時代に僧行基が聖武天皇の病氣快復を願って彫った観世音菩薩を納めた寺で駿河七観音のひとつとして知られている。その後鎌倉時代以後、久能寺と共に駿河文化の中心として大いに栄え、徳川家康から四八〇石の朱印を受けたといわれている。しかし、かくも栄えた建徳寺も明治政府による神仏分離の宗教政策などにより多くの院坊も壊され、また、明治三年の火災により、ほとんど焼失してしまい、現在は再建された観音堂に納められている多くの仏像によって往時を偲ぶのみである。多くの皆さんの御協力で再建された観音堂は建徳町内会で維持管理されている。

四月一日から始まる浅間神社の廿日会祭に奉納されている稚児舞は古くから建徳寺の舞として伝えられているもので、家康が駿府在城の頃、建徳寺に参拝した折、稚児舞を見て大変気に入り、崇敬厚い浅間神社へ奉納するようにと言われたことから始まり、今日まで伝承されている。

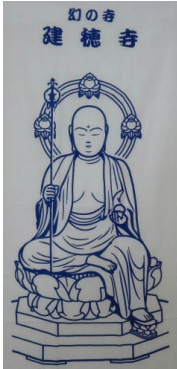
建徳寺は駿河二十三観音の札所の一つであり、お参りに行ったことがありますが、町内会で維持されている狭い観音堂にひしめきあっている仏様を見ると、

気の毒でなりません。そして建徳寺の現状をみると寺院の維持がどんなに難しいことか、考えさせられます。ある和尚様に「住職は一代、寺は末代」ということばを教わりました。自坊を未来へつなげる責任を痛感しました。

秘在寺では希望者を募って、駿河一國十三観音巡拝を皮切りに、参拝の旅を実施してきました。遠江三十三観音札所もお参りしましたが、駿河よりもこちらのの方がもっと寺院維持の難しさを感じます。札所であり、賑わったであろう寺が今は小さなお堂を残すのみというところが何軒もあります。観音霊場であるのに現在浄土宗であったりすると、吸収合併されたのだろうと想像されます。(遠江三十三観音は遠州三十三観音とは違います)

静岡県には駿河一國三十三観音、遠江三十三観音、伊豆横道三十三観音と三つの霊場があります。今ではこの観音霊場巡拝もすっかり廃れてしまいましたが見直してみませんか？

毎日新聞に載った記事を紹介します。「伊豆八十八箇所霊場遍路」を復活させようとしている方の紹介です。「仏教に救われた」と書いてありますが、私たち寺庭はどうでしょうか？私も仏教徒としての生き方をしているか、問われたような気がしました。



数々他人の行う資金調達には、特定の人や組織に財源の提供や協力を指し、群衆(crowd)を組み合わせた造語です。クラウドファンディングとは、不特定の人や組織に財源の提供や協力を指し、群衆(crowd)を組み合わせた造語です。

江戶時代は盛んだったが、その後衰退した「伊豆八十八箇所霊場遍路」を復活させようとしている住民グループがあると知り、取材した。

復活に取り組み伊豆霊場振興会は1960年ごろ1冊の納経帳を見つけたのを契機に本格的な遍路の調査を始めた。伊東市の名士が作った歴史ある会だ。しかし、現在の4代目会長の遠藤貴光さん(46)は、三島市のIT会社社長でもある。就任のいきさつも気になった。

「幼い頃から他の人と会話が通じない」と生きているを感じてきた。心のよりどころにしたのが神仏だった。霊場巡りの趣味が高じて書書を出し、3代目会長の目にとまり、4代目就任を要請された。



## 多様性を認める

高い知能指数を持つ人が入会できるグループ「メンサ」の会員でもある。中学2年の時に受けた職業適性検査で知能指数が平均を大きく上回っていることが分かり、担任の教諭に専門教育機関への進学を勧められた。知能指数が高い子供の中には、授業がつまらないと感じたり、同級生や教師との関係が成り立たなかったりし、良好な人間関係が結べないこともあるとされる。

遠藤さんはそのまま中学校にとまることを選択し、地元工業高校を卒業後に金型工場に就職。19歳で結婚し、長男に恵まれた。仕事にやりがいを感じていた一方、人間関係に悩み、転職を7回繰り返した。33歳の時IT会社を起業した。

遠藤さんは「伊豆遍路の復活は、自分を救ってくれた仏教への恩返しの意味合いもある。全知全能の神も人もおらず、個性や多様性を認め合うのが仏教ですから」。

【垂水友里香】